

子どもから大人、若者から高齢者に至るまでのすべての人の文化を

文化高知

2020年5月 NO.215



【もくじ】

- 2～3 第30回高知出版学術賞を審査して…青木晴男
- 4～5 高知県のオオサンショウオ（上）…町田吉彦
- 6～7 クラシックギターコンサート…宇高靖人
- 8～9 高知の公共交通…とさでん交通株式会社
- 10 私を魅了する高知のコントラスト…タフネル トリスタン
- 11 「アンテナ」屋久島ヒッチハイク旅（後編）…下尾 仁
- 12～13 高知市文化振興事業団3月の事業から
- 14～15 風俗歳時記・風伯

表紙デザイン：「はな」土居 一美

公益財団法人高知市文化振興事業団

高知出版学術賞を審査して

青木 晴男

本年は十三点の応募作品があった。第一次審査を通過した七点を

委員間で精読し合い、第二次審査で更に委員間で討議を尽くした結果、委員会の総意として次の二点を受賞作品（本賞一点、特別賞一点）に選んだ。ただし、第一次審査を通過した七点のうち一点は、執筆者の中に本審査委員会の委員が含まれていたため、「高知出版学術賞要綱」に従い、当該委員を除いた審査委員間で精読し合い討議した結果、特別賞が決定された。



■本賞

松田直則 編

土佐の山城

山城50選と発掘された23城跡
(ハーベスト出版刊、A5判、399頁)

土佐の山城

山城50選と発掘された23城跡

松田直則 編

土佐の山城 山城50選と発掘された23城跡

本書は、これまで県内の多くの山城遺跡を発掘調査してきた中世考古学を専門とする編者ら数人が、「発掘調査された以外の」五十城跡を改めて調査して縄張り図作成を行った調査成果と「発掘調査された中世城郭」二十三城跡を紹介

すると共に、これまでの四国・高知県における中世後半（南北朝期頃から戦国時代まで）の城郭研究の歩みをまとめたもの。編者によれば、土佐の山城については、宮地森城（一八三九―一九一五）が明治時代に独りで三百三十四城跡を歩き残した記録（『土佐國古城略史』（一九三五）以後、約半世紀を経た昭和の後半になって山城の発掘調査が始まり、平成に入り山城を分かり易く紹介する刊行物が目立つようになったことに刺激を受けた編者が、土佐を統一した長宗我部元親の生誕四百八十年（二〇一九）を期して本書を刊行した、という。

本書の構成は、第一章「土佐城郭研究の歩み」（通史的内容を含

む城郭研究の歩み）、第二章「土佐の山城を歩く」（是非一度登城して欲しい五十城跡）、第三章「発掘された中世城郭」（これまで発掘調査された土佐の山城の調査内容）、第四章「土佐の城郭研究成果と長宗我部氏の城」（これまで高知県の研究成果）の四章から成る。各章題の後のかつこ内のことは編者自身による章内容の要約である。本書は、第二章と第三章が占める頁数の割合が各々六十四％と二十一％で計八十五％となり、本書の表題通りこの二つの章が本書の中心で、計七十三城跡について城郭遺構関連用語を用いた詳しい解説がなされている。とりわけ、第二章の「登城して欲しい」五十城跡では、各城跡ごとに所在

地・遺構・訪城ルート・歴史・縄張り図・見どころなどが詳細に記述されているだけでなく、時期・服装・交通マップなど「訪城にあたって」の諸注意も添えられているので、本書はこれから訪城したいと思う読者には土佐山城の便利なガイドブックの役割を果たしてくれるだろう。

ただし、本書では一章及び四章も含め全体に、城跡からの様々な検出遺構や出土遺物などに基づき各城の出現・機能の時期を考察・推定・比較している描写が多く、城郭遺構関連用語に不慣れな一般読者にとっては通読するのが難しいと感じられるかもしれない。しかし、いったん城（跡）に興味を持ち、遺構関連用語にも通曉し始めた読者には、本書は便利なガイドブック以上の、土佐の山城についての貴重な資料集となる。また、三章の発掘調査された中世城郭の内容も充実しており、四章では今後の研究の方向性も示唆されていて、参考文献も整備され学術的に

も優れているので、出版学術賞に相応しい著作である。

特別賞

高知県立大学文化学部 編

大学的 高知ガイド

こだわりの歩き方

（昭和堂刊、A5判、381頁）



大学的 高知ガイド こだわりの歩き方

本書は、「あとがき」によれば、高知県立大学文化学部の改組二十周年、新カリキュラムの完成年次、永国寺キャンパス竣工の三つを記念するため、昭和堂『大学的ガイド』こだわりの歩き方』シリーズの高知版として出版されたものである。総勢四十一人の執筆者の多くは高知県立大学文化学部の教員であり、その専門分野も言語、文学、地域、観光、食、法文化など

多様であることから、取り上げられるトピックも多岐にわたっている。本書を手にする読者は、各執筆者たちの独自の視点による、土佐・高知のことば、文学、文化、まち、歴史、自然、食、暮らし等に対する考察を通じて、これまで見逃してきた高知の一面を知る機会を与えられるだろう。

構成は、第一部 まちをあるく、第二部 歴史文化を訪ねる、第三部 食と自然を旅する、第四部 暮らしから学ぶ、の四部から成る。取り上げられている各トピックは長くても十頁前後のものがほとんどで、一般読者向けに書かれているので、専門的知識のない者でも自分の関心に応じてどこからでも気軽に読める。また、各トピックに関連する歴史的、政治経済的、文学・文化的、及び地理的など、様々な背景知識も随所で紹介されているだけでなく、トピックごとに引用文献も掲げられており、索引もあり、情報発信源として信頼できる。ただ、欲を言えば、自

然系の話題がもう少し欲しかったが、学部の性格からして仕方ないことだろう。

いずれにしても本書を手に取り読み始めれば「土佐の高知には、こんなにも豊かな文化・歴史があったのだ！」と気づかせてくれること必定の好著である。県民はもちろん、県内の大学生、高校生そして中学生にも読んでもらいたい一冊と言える。限られた文字数で各著者が苦労しただろうことが察せられ、出版の労を称えるに値する著作であり、特別賞に相応しい。

あおき はるお

一九四九年 埼玉県秩父郡皆野町生まれ。

高知県立大学名誉教授。第30回高知出版学術賞審査委員長。専門は現代イギリス文学。共著に『英米文学を読み継ぐ』（開文社）、共訳に『D・H・ロレンス全詩集（完全版）』（彩流社）など。

高知県のオオサンショウウオ(上)

町田 吉彦

何を物好きにオオサンショウウオなどに首を突っ込んで、どうする気だとお叱りを受けるかもしれない。実は私、高知県文化財専門委員を務めている。生き物関係の委員は四名。植物、昆虫、家禽の専門家に加え、動物担当一名となっており、昆虫以外の国ならびに県指定の野生の天然記念物を担当するという役目である。

オオサンショウウオが国の天然記念物に指定されたのは一九五一年。翌年に特別天然記念物に指定された。その当時よくあったパターンで、間髪を入れず「昇格」した動物の一つである。天然記念物の指定には地域指定と種指定があり、本種は後者である。すなわち、国内であれば、どこで発見されても文化財保護法の適用を受ける。この仕事に関与し出してから分かったのだが、県民の多くは、天然

記念物・特別天然記念物には勝手に手を触れてはならないという決まり事が頭に入っていない!?と思われる。実際、室戸市に生息している国の天然記念物であるムラサキオカヤドカリには参った。一個体七千円もするというデマに惑わされた人も多かったようで、ほとんど捕り尽くされてしまった。自然の産物は自分のもの、と思っているのである。勝手に手を触れて良いのは、例えば、瀕死の動物と遭遇した、あるいは、その場から移動させないと命を落とす可能性が高い場合である。このような時に手を差し伸べるのは誰でも良いや、手を差し伸べなければならぬ。当事者が学者・研究者である必要はまったくない。オオサンショウウオの場合は、直ちに地元

の教育委員会もしくは県文化財課に問い合わせる指示を待つか、あるいは応急的な措置をしてから連絡するのが望ましい。環境庁ができてからいささか様子が変わったが、従来の多くの天然記念物の管理は文化庁の仕事であり、通常は地方の教育委員会が直接担当する。さて、オオサンショウウオと言われても、身近にいない動物なので、小生には教科書レベルの知識しかなかった。オオサンショウウオの存在をヨーロッパ人に知らしめたのはフリーリップ・フランツ・フォン・シーボルト(一七九六—一八六六)である。ドイツ人の医師であったが、オランダ商館のオランダ人医師と偽って長崎の出島に居住し、江戸に出向いた際に各地の産物を入手してはそれらをオランダに送った。それらのうちのひとつが鈴鹿山中で入手した本種二個体である。三重県立博物館の紙上博物館第十二話には、送られた

のは雄雌各一個体で、航海中に雄が雌を食い殺してしまったとあり、これは他の文献にも散見される。残った雄はオランダのライデン市に持ち込まれた後、アムステルダム動物園で飼育されていたが、一八八一年六月に死亡した。その標本は現在、ライデン市にあるナチュリス生物多様性センターで保管されている。この施設はかつてのオランダ国立自然史博物館である。

私は一九九一年と一九九三年にライデン市に滞在した。いわゆるシーボルト・コレクションの魚類標本を調べるのが目的であった。重要な標本は別室にあり、特別扱



いであるが、それ以外の標本はシーボルトコレクションとしてひとかたまりになっているのではなく、通常の博物館のように分類群ごとに整理されている。薬剤師のハインリヒ・ビュルゲルはシーボルトの助手役で、シーボルトが国外追放になった後もオランダに標本を送り続けた。彼の収集物もシーボルト・コレクションの一部となっており、標本を探し出すだけでも大変な作業だった。この館は、当時、世界で残り少なくなった研究専門の施設であり、一般向けの開放は年にわずか一日のみという、まったく浮世離れた博物館であった。我々のようなゲストは、知り合いの研究者が職務についた頃を狙って館外から電話し、玄関の鍵を内側から開けてもらうしかない。電話の前に昼食用のパンを買うのが日課であった。館内に入ると、標本庫以外の各自の部屋はほとんどと施錠されていなかった。魚類が専門であっても他の分類群の標本は見せてもらえる。しかし、オオサンショウウオは専門外なので、瓶から取り出しての観察はさすがに遠慮した。

広島市安佐動物公園の田口勇輝氏が述べているように、オオサンショウウオの標本は三個体あり、最大の個体がロッテルダム動物園で飼育されていた個体である。ただし、この標本の由来は不明とされている。その他にやや小さい標本が二個体あったが、レクトタイプ・パラレクトタイプとしてあることから、命名に使われた標本であることは確実である。産地はHonsuとしてあった。シーボルトが国外追放になったのは一八二九年で、オランダに入国したのが一八三〇年である。当時、自然史博物館は王立であり、館長であったコンラート・ヤコブ・シュレーゲルが、シーボルト・コレクションのオオサンショウウオの標本に基づき新種を記載したのが一八三六年である。現在の学名は*Andrias japonicus*（アンドリアス ヤポニクス）であるが、記載が標本に基づかねばならないのは分類学の鉄則である。通常は、標本のラベルに採集年月日を書くが、一八二五年一月一日となっており、さすがにこれには疑問符が付くが、シーボルト・コレクションの一部である

ことは明白である。一八三八年にライデンで出版された*Fauna Japonica*（日本動物誌）には*Salamandra maxia*（サラマンダー マキシア）として掲載されている。前出の田口勇輝氏は大型の標本には傷があるが、致命傷というほどではない。また、小型の標本には傷がなく、航海中に一方が噛み殺されたという説に疑問を呈しており、この経緯を事前に調べていなかったのは今でも悔やまれる。

さて、小生が高知県でオオサンショウウオと出会ったのは随分前である。記憶がいささか危ういので、わんぱーくこうちアニマルランドの吉澤未来園長に問い合わせたところ、一九九五年五月十二日のことであった。文化財保護室から電話があり、高知市内の竹島川でオオサンショウウオが見つかったので、対応を頼むとのことであった。しかし、竹島川はどこだという情けない有り様。住宅地図で探してやっと分かった。住宅街である孕西町と六泉寺町を分ける延長わずか一・三キロメートルの流れである。浦戸湾七河川の一つで二級河川であるが、どう考えて

もオオサンショウウオが生息しているはずがない。全長六十二センチメートル。亜成体であろう。相手は特別天然記念物。どこで見つかるうが、保護の必要がある。放つておけば生き続けるのは不可能だ。同行してもらったわんぱーくこうちアニマルランドの職員と当時の園長、渡部孝さんと相談し、動物園で飼育保護してもらうことに決まった。水を冷やす装置がないのには困ったが、高知市が急遽冷却装置付きの水槽を構えてくれた。今ではにわかには信じ難い対応であったが、これも特別天然記念物ゆえかもしれない。どのみち飼育マニアが放棄したのは間違いないのだが。

（中）へ続く

まちだ よしひい

一九四七年 秋田県生まれ。高知大学名誉教授 理学博士。

高知県希少野生動植物保護専門委員、高知県文化財専門委員、環境省希少野生動植物保護専門委員など。

専門は水生動物学、地域の自然史科学。

クラシックギターコンサート

宇高 靖人

「うわ、いっぱいやん…」知ってはいたのにあらためて美術館ホールの客席を見て驚いて漏れ出た言葉である。

今は山下俊輔×宇高靖人ジョイントコンサートの開場時間で、客席のみが明るく照らされているので、暗いステージ脇からこっそり覗き見た僕は、高まる心臓の音にも気が付かないほど動転していた。やることは全てやってきたと念じ、うまくいくと自己暗示をかけ、用意してきた台詞をぶつぶつと念じるが一向に手の震えは止まらないのであった。

「ビーーーー」と開演のブザーがなり、堂々とした気持ちで奮い起こし舞台へと向かう。

この頃のクラシックギターのコ

ンサートと言えば、演奏者はほとんど喋らない。お辞儀と演奏で始め、プログラム最後に初めて挨拶をして終えるというものが多かったが、僕は山下の意見で新しいコンサートスタイルとして「喋ること」を盛り込んだコンサートを行おうと意気込んでいたのである。

「次の曲は僕のギターソロ演奏で、ゴヤの美女を演奏します。この曲は――。」

暗記したつもりの台詞を喋り、途中で何度も言っている内容がチグハグになりつつも、なんとかごり押しという表現がびったりなほどの言葉でまとめ、これで説明できたと勝手に納得して演奏を始めたのである。演奏中に余裕はもちらないが、気まずい空気という

のは、客席と距離があっても分かるもので、冷や汗を大量に流した演奏となったのであった。

この冷や汗を温かいものに変えるには、どうしたら良いのかトク中必死で考え、はっと気がついた。「そうだ、決められた台詞を読むだけになってしまっているからだ！」それに気が付いてからは、台詞から一旦離れて、その場で新たな目線と曲について考え、自分の言葉にして話し始めた。すると、さっきまで存在した「奇妙な間」は無くなり、それは「考える間」へと変わり、気まずい空気が元通りになっていった。それでも言葉や伝えたいことがまとまっていなかった為、「なんか変なトーク」だなと思われただろうことは間違いないが。

ないが。

ギターデュオ「いちむじん」結成より以前に行われたこのコンサート。人前での演奏の難しさや、伝えたいものが明確にあるのか、演奏者は演者であるという当たり前の心構えなど痛切に感じるコンサートとなった。しかし、大事なことも知るようになる。それは「自然体が何より大事だ」ということだった。

コンサートは概ね無事に終わり、課題を沢山残した結果となったが、しかし個人的には手応えを十分に感じ、演奏家としてもやっていけるかもしれないと感じた。その中



でもっとも感じた手応えとは、演奏中のお客様の反応である。高知のよさこい祭りでも有名な『よさこい節』を取り入れた曲『夜更來変奏曲』作曲・荊燦馮（リ・サフオン）を演奏中、客席を見ても暗く顔は見えないのだが、演奏者に集中してくれていることがよく分かるのだ。

静寂から始まる小太鼓の音、美しいハーモニクスの煌めき、トレモロ奏法での大きな音の横の流れ、力強く叩く太鼓の音、大きな掛け声と共に盛り上がりをもせる最終楽章、意識をこちらに引く張って、自分達の音一粒一粒を味わってもらっているという感覚になったのだ。

それは、演奏家として必要な「お客様の心を捉える感覚」を得た瞬間だった。「一度知ったらやめられない」とは、よく言わ



れる言葉かもしれない。お客様と同じ空間で同じ音を共有できるご褒美のような瞬間は、長い演奏家人生でも大切な糧となっている。

その翌年には、都内でのコンサートに成功させた。

その場に来ていたポニーキヤニオンレコードのT氏から、メジャーデビューの誘いを受けCD発売が決まった。

その後は決して楽ではないが充実した音楽活動を行なって行くことになる。

現在。その時の自然体を忘れずに、真摯な気持ちで音楽と対峙している。新型コロナウイルスによって、大変な状況ではあるが故に、心から音楽を大切にしようと思う。



うだか やすひと

高知県立岡豊高等学校で二年よりクラシックギターを始める。

桐朋学園大学短期大学部ギター科卒業。

第十六回日本重奏ギターコンクール第一位。

ギターデュオ「いちむじん」として結成。二〇一六年まで十二年間活躍した。代表作には

福山雅治主演二〇一〇年NHK大河ドラマ「龍馬伝」エンディング曲を担当した。

現在は、クラシックギターの名曲を主にした演奏活動を行っている。

音とお話のユニット「おとばな」のリーダーとしても活動中。

二〇一七年、いちむじんの育ての親「松居孝行」氏とのデュオアルバム「gentle」リリース。また、二〇一八年二月一日、「おとばな」として初アルバムCD「おとばなオリジナルセレクション」をリリース。同年、二月十五日にはフルートとギターのデュオ「アルボル」の初アルバムCD「the garden」をリリース。

作曲では、高知龍馬空港のテーマ曲、アイゴッソ高知（現在は高知ユナイテッドSCに統合）公式応援歌、高知銀行Z E Y O ローン TVC M曲を担当。

アジア初開催となるラグビーWC2019VP音楽担当。

宇高音楽教室主宰。（茨城県・東京都）
<https://udakamusic.jimdo.com/>

オンラインレッスン生募集中。

桐朋教育研究所桐朋講座ギター講師。

桐朋学園芸術短期大学非常勤講師。

フルート×ギター×語り×音とお話のユニット「おとばな」 <https://otobana.jimdo.com/>

高知の公共交通

とさでん交通株式会社

とさでん交通は土佐電気鉄道と高知県交通が統合し、平成二十六年十月一日に設立された会社で、今年で六年目を迎えます。

まず、「とさでん」の愛称で親しまれた土佐電気鉄道は明治三十六年に設立され、翌年の五月には日本で十番目となる路面電車が高知の街を走り始めました。定員二十七名の小さな単車四両で金ポタンスタイルの運転士がさっそうと市民の皆さまの前に登場しました。路線バスは土佐電気鉄道が設立した「高知バス」が、昭和六年に運行を開始したのがその始まりです。

一方、「けんこう」の愛称で親しまれた高知県交通は土佐の交通王、野村茂久馬が創設した会社です。昭和十四年に野村組と野村自動車会社が合併して野村産業が設立さ

れました。その後昭和十九年、陸運統制令（戦時統制令）により野村産業と他のバス会社が統合して高知県交通が設立されました。一時は徳島県牟岐から足摺岬まで東西最長三〇〇キロ近くの路線網を持つ四国最大のバス会社でした。

このような歴史のある二社が統合した「とさでん交通」ですが、お気づきのことが沢山あるうかと思えます。まず路面電車ですが、古い車両が多いなあと感じる方もいるのではないのでしょうか？ 実は、営業車両のうち、製造から五十年以上経過している車両が実に八割を超えています。新車を購入したものはやまやまですが、一両が億を超える金額なので、頻繁に車両を買い換えられません。とさでん交通では、お客さまに安心してご

利用いただけるよう、定期的な点検はもちろん、予防的な修繕を行うことで安全の確保に努めています。そのような中、統合後、平成三十年三月に十六年ぶりの新車両「ハートラムⅡ」を導入しました。この車両は超低床車両で高齢者や障害者の方も乗り降りしやすい構造になっており、多くの皆さまからご好評をいただいています。また、維新号や外国車両など、貸切車両として、「目で見て」「乗ってみて」「楽しんで」いただける車両もあります。

他方、路線バスも統合時は購入から二十年以上経過の老朽化した車両が四割を超えていました。統合後は計画的に車両を更新し、これまでに二十七両を新車で更新しました。とさでん交通カラーであ

る、グリーンとオレンジが入った低床車両は、路面電車の新車両と同じく、乗り降りしやすい低床式のバスになっています。また、今年一月に「EDSS」（ドライバ―異常時対応システム）を搭載した路線バスを導入しました。この車両は乗務員の異常に気づいたお客さまが緊急停止ボタンを押すことで、安全に停止できるシステムであり、これからも順次増やしていく計画です。このように、とさでん交通では県民・市民の皆さまの安全・安心を最優先に、少しで



新車両「ハートラムⅡ」

も快適にご利用いただけるよう、車両更新しています。

とさでん交通では、多くのお客様さまにご利用していただくために、様々な割引サービスや、お得にご利用いただけるきっぷ、定期券を発売しています。一例として電車・バス乗継割引サービス、新春初詣きっぷ、バス・電車一日乗車券、バスキッズ定期、おでかけ電車65定期などがありますので詳しくは当社ホームページや最寄りの窓口にお問い合わせいただければと思います。

続いて実施中の取り組みについて紹介いたします。

まず、社員だけでなく、社長以下役員も含めて平成二十七年十月から継続実施している「ローラー活動」です。これは沿線の住宅一軒一軒に時刻表やサービス一覧と一緒にアンケートはがきを配付し、お客さまの声を利便性の向上につなげようとする活動で、そのお声を参考に改善に取り組んでいます。次に、高知市市民活動サポートセンター（NPO 高知市民会議交通まちづくり部会）、特定非営利活動法人環境の杜こうちと共に主催する「電車とバスで高知をうろ

ちよろー」。これは小学生とその保護者を対象に、クイズを通して楽しみながら実際に電車・バスを利用して答えを見つけてもらうというイベントで、電車・バスを身近に感じていただき、将来のご利用につなげる取り組みです。

同じくNPO 団体「交通まちづくり高知」と共催しての「出前授業」。これは、要望のある小学校に路線バスが出向き、環境に関する講話を行うとともに、バスの乗り降りの仕方や、マナー、交通安全についての授業を行っています。



新車両の路線バス

また、若年層のみならず、高齢の方にも講演を実施しており、昨年四月には「高坂学園生涯大学」で公共交通の歴史や、ICカード「ですか」の使い方についてもご傾聴いただきました。

さて、皆さま、とさでん交通が公共交通を維持するために、非常に大きな課題に直面していることをご存知でしょうか？それは乗務員不足です。業種を問わず、全国的に人手不足が深刻になっていますが、公共交通を担うとさでん交通にとっても、特に路線バスで顕著に表れています。昔と比べると、バスの本数が少なくなったところか、バスが来なくなったという方も多いと思います。これは、バスを走らせたとしても、運転手がいないため、路線の廃止や減便をせざるを得ない一つの要因です。バスのみならず、電車の運転士不足も同様で、昨年十一月に通勤・通学に影響の少ない土日祝ダイヤの減便を実施しました。そうはいっても、直面する乗務員不足の課題に手をこまねているわけではありません。運転手の確保に向けて、路線バス運転に必要な大型二種免許取得支援制度を設けたほか、女

性運転手確保のためのイベントへの参加、バス運転手就職専門サイトが開催する就職イベントの関西会場への参加や、更にはバス営業所見学ツアーなど運転手確保に向けた様々な取り組みを行っています。

最後に、この原稿を作成している三月現在、新型コロナウイルスが猛威を振るっています。とさでん交通では、路線バス・路面電車とも全車両の消毒を行うなど、感染症防止に向けた対策を取っております。今後とも安全・安心で持続可能な公共交通を目指してまいりますので、引き続きご利用をよろしくお願い致します。

とさでん交通株式会社

二〇一四年 高知市にて設立
路線バス、路面電車といった公共交通をはじめ、貸切バス、高速バス、航空代理事業、広告事業、整備事業、旅行事業等様々な事業を経営。

私を魅了する高知のコントラスト

タフネル トリスタン

南イギリスにある私の田舎では、冬は暖か過ぎて、雪はほとんど降りません。そして、夏はそれほど暑くないので、熱帯の植物は全く生えていません。なので、初めて高知の土を踏んだ一月の午後、駅前のヤシの木に雪が積もっているのを見て、「ヤシの木と雪！私是一体どんな所に来たのか！」と思いました。

実を言うと、来日前は、日本とはどういふところか、イメージはほとんど持っていませんでした。その場所を知らないということが、すごく魅力的に思えたのです。未知への探求です。知っていたのは、大都市東京のネオン街や人で溢れた街並み、ハイテクな新幹線、広島や富士山といった日本のステレオタイプなイメージだけ……。しかし、高知で過ごすうちに日本の持つさまざまなコントラストとその複雑さの不思議に気づかされました。

そういう日本のステレオタイプ

のイメージがあったため、家の外で聞こえるジジジジジという音は、ネオンの出す音なのか、虫の羽音なのか、よくわからず、毎晩悩んだものでした。（一カ月経経って、虫の羽音だということが判明しました）。

イギリスは日本と違い、平地が広がり、山が少ないです。そのせいか、都会の街は広がっています。ですが、高知は都会の一面と田舎の一面が共存し、繁華街から車ですぐのところにも、すばらしい自然に触れます。

来日して数カ月経ったころ、私の高知人生で最も印象深い体験を



しました。夜、水を湛えた田んぼの横で立つ私の周りには、他の音をかき消すかのようなカエルの鳴き声が……。そして、そこで空の星より明るいものはシンクロしながら光る蛍の光だけ！一生忘れられません！

来日して十五年経った今でも、高知が持つコントラストに興味を引き付けられ、本当に面白いく感じています。

例えば、山頂で山を包む雲の上に立つ経験、台風が引き起こす波、暗闇の中で発光するキノコ、桂浜での月暈のかかった満月など。そして、世界のどれぐらいの場所でも、サンゴのまわりでスノーケリングができ、そのサンゴを見ながら、雪を被った山々も見ることができるといいます。

この複雑さとコントラストが私が高知に恋をした理由です。

高知が私にとって特別な存在である最後の理由は、人です。ここ



の自然や景色と同じように、人にも様々な人がいます。

私はここで暮らす間に、その人々と本当にかくさんの素晴らしい思い出を作ることができました。

最後に、三月下旬にこれを書いているのですが、予測不可能なコロナウイルスについて、また、このウイルスと戦っている人々に今、思いを馳せずにはいられません。この危機に、普段通り社会を動かすよう尽力してくださっている病院関係者の方々、食料品や物資の販売業者の方々、その他たくさんの方々に感謝いたします。皆様の健康を心から願っています。



タフネル トリスタン

一九八〇年 イギリス出身
二〇〇三年に初来日。
現在、高知市竹島町でプロッサムズ英会話教室を運営。

「アンテナ」

屋久島ヒッチハイク旅(後編)



下尾 仁

実は屋久島に行ってみたくて、無しが、屋久島の知識は全く無し、はしMも一週間前まで、何処にあるか知らないぐらいだから僕より何も知らない。とりあえず宮之浦港でヒッチハイクをして、乗せてくれたおじさんに、何処に行けばいいですか?と託してみた。すると、このおじさんがまたいい人で屋久島観光に連れて行ってくれた。千尋の滝、大川の滝、巨大ガジュマル、そして海の中にある無料の湯泊温泉。ここであつたり温泉に浸かりテントを立て、泊まることにした。

次の日の朝、温泉に入っていると一人の女性がやってきた。この女性は前日も温泉に来ていて挨拶をしていたので話しかけやすかった。今日はどうか行きますか?と聞いてみた。すると、モッチョム岳という山に登山すると言った。僕も連れて行ってくれませんか?と頼んでみると、是非是非と言ってくれた。その頃、はしMはテントで熟睡中。「山登り行くで」と、はしMを起こし、女性の車に乗り、モッチョム岳に向かった。女性の

名前は、りっちゃん。東京からで屋久島にはもう何回も来ているとのこと。モッチョム岳は、なかなかハードな山で、ガイドの方たちも登るのを躊躇うほどの急な登りが果てしなく続くという。後から知ったが、通称「DMの山」。しかし途中出会った樹齢三千年の「万代杉」―モッチョム太郎―といった迫力のある屋久杉たちにパワーを貰い、山頂に着くと言葉では表現出来ない程の絶景。しんどい思いをしたからこそあじわえる贅沢切り立った頂上からは水平線が見渡せ、思わず「屋久島来たぞー」と叫んでしまった。

無事に登山も終え、さあ今日はどこに泊まるかと話をしていると、りっちゃんが、私の泊まっている民宿の庭が広いので、そこにテントを張らせてもらえませんか?と頼んでくれた。そのまま車に乗り、民宿に向かった。民宿のお母さんに挨拶をすると、何故かお母さんは、僕とはしMを二度見した。するとお母さんは、お金はいらないので、はなれに泊まっていきなさいと言ってくれた。僕は、

えっ何故民宿なのにただで泊まっていけないかと思いがちでも、お言葉に甘えることにした。

その日の夜、一般のお客さんに交じって僕とはしMはご飯とお酒をこちそうになった。いい気分になつてきた僕たちは、皆の前でよさこいを踊ってみせた。するとお母さんがえらく喜んでくれ、どんだんお酒を勧めてくれ、気がつけば僕は、お母さんの膝枕で寝てしまった。次の日から、僕は民宿の雑用をなんでもやりますと、草引きや買い物などお手伝いを買って。はしMは、前日の登山で足が棒のようになり、今日一日は何も出来ないという感じであつた。りっちゃんは、この日に東京に帰るので、またご縁があれば会いましょうと別れた(それから一年後ぐらいに高知に遊びに来てくれ再会した)。

僕とはしMは、民宿をベースに屋久島を堪能した。もちろん縄文杉を見に登山もしたし、山小屋に泊まったり、沢山の出会いや奇跡のような出来事を経験して屋久島にしばらくいたいと思つたが、職業訓練校の入学日が迫っている。しかも帰りもヒッチハイクなので、どのくらいで帰れるかもよくわからないので一週間お世話になった民宿から旅立つことを決めた。民宿を離れる日、お母さんに感謝の言葉を告げると、お母さんは、いつまでもおつていいのにと。そして、あなたはこれから出会うであろう旅人には親切にしないさい。その親切にされた旅人は、次の旅人に、

そしてまた次へ次へと広がっていく。そういうことが増えていけば世の中はすごく良くなるし、心が豊かになると言われた。最後の最後まででんていいお母さんなんだろう。フェリー乗り場までお母さんに送ってもらい屋久島を後にした。

鹿児島港に着いたのは、午後六時前、もう、はしMと競争することもない。はしMが、福岡の友達の所に行こうと思うと言出した。ならばここで別れやなど、出たも固い握手を交わし、僕は高知を目指した。

それから、とんとん拍子に高知に近づき、最後に乗せてくれたおじさんは囲碁をやっているという話になり、僕の母もやりますよと言つと、後日、おじさんと母は一局もうけることに。なんともご縁である。

その時、はしMは、流れ流れて岐阜県まで行き、半年ほど仕事をしていたそう。

屋久島ヒッチハイク旅は僕にとつて大切な経験になり、宝物となつていく。出会ってくれた皆、元気かな?あれから十年経った今も、民宿のお母さんからもらった最後の言葉は、今も僕の頭から離れない。旅人カモン。

しもお ひとし

一九六九年生まれ
岡豊高校一期生。二十五歳ぐらいに演劇に目覚め、日夜面白い事はないかとキョロキョロしている。

3月の事業から

第三十六回



写真コンテスト・高知を撮る

「高知を撮る」は、過去から現在に至るまでの県内の出来事や風景、人々の暮らしを写真で記録し、高知の様々な表情を伝えることで未来の高知について考えようという趣旨で開催しています。

令和二年三月十七日～二十二日、かる

ぽーと市民ギャラリーにて、「第三十六回写真コンテスト・高知を撮る」入選作品展の開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止しました。コンテストには、九十五名の方から二百九十四点の応募があり、審査の結果六十六点の入選作品を展示する予定でした。

記録写真部門・昭和以前の部では、高知県庁での聖火リレーの出発式を撮影した「昭和39年オリンピック東京大会 聖火リレー」が特選に選ばれました。日本で二度目のオリンピックが開催されることになった。今、ならではの作品でした。平成以降の部の特選では、高知城追手門でかつら祭りの人々が全員集合した「かつら祭り」。現在は行われていないのが残念です。



【記録写真部門】昭和以前の部 特選
昭和39年オリンピック東京大会 聖火リレー／松山 久生



【記録写真部門】平成以降の部 特選
かつら祭り／乗松 賢二

I LOVE 高知部門では、高知城でボケの花をバックにオジロビタキという鳥の躍動感あふれる羽ばたきの瞬間を捉えた「ボケをバックに」と、高知市九反田の満開の桜に集う人々の楽しそうな様

子を撮影した「九反田の春」の二点が特選に選ばれました。

令和を迎えて昭和の写真がますます貴重な歴史の史料となりつつあります。また、次回から令和の時代になつての新たな高知の姿を楽しみにしています。

これからも、写真を通して高知の過去と現在を繋ぐ、より多くの方に親しまれるコンテストとして長く続けていき、入選作品展にてたくさんの方にご覧いただきたいと思っています。

高知市文化振興事業団



【I LOVE 高知部門】特選
ボケをバックに／横畠 正彦



【I LOVE 高知部門】特選
九反田の春／横山 幸代



高知を撮る

第36回写真コンテスト入賞作品
長浜のどろんこ祭り

つかまらないよ～だ！

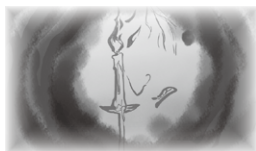
(平成31年4月6日 高知市長浜)

福島 有規

半世紀近い時を経て見直したこの映画からは、全く違う物語が伝わってきた。それは、絵師・金蔵がいかにして「絵金」になったかという内的必然のドラマだった。おれは裏切る。全てのものを裏切る。裏切らねばならぬ。親も、師匠も、藩も、おれ自身も。…という趣旨のどぎつい台詞が出てくる。この言葉通りに、金蔵は、「裏切り」続ける。

『闇の中の魍魎(ちまうりょう)』という、おどろおどろしいタイトルの映画を見た。幕末に活躍した絵師・金蔵——絵金の半生を描いた作品である。絵金蔵開館十五周年を記念した企画で、「闇の部屋」と呼ばれる展示室で二月十日に上映された。私はこの映画を四十年前(学生時代)に高知市内の小さな映画館で見ていた。残酷とエロティシズム——という印象が強烈だった。血しぶきが飛び散り、女性の裸体が、舐めるように繰りかえし映し出される。それに目を奪われ、天才絵師金蔵の人物像がつかめなかった。ただ、滅茶苦茶な男だったらしい、ということだけはわかった。破壊に向かって暴走しているような印象だった。

絵金蔵で 絵金の映画



風俗歳時記

切りは、偽絵づくりだった。これが発覚し、金蔵は城絵師の地位を失い、城下から追放される。だが金蔵は、田舎芝居の芝居絵を描き始める。この時から金蔵は、「絵金」として蘇ってゆく。そんな物語の流れが、今回は鮮明にわかった。歳は取るものである。

(本の虫)

金蔵は、早くから絵の才を認められながらも、自分は自己を偽って生きていくという漠たる不安にさいなまれていた。真の自己、血の根源に回帰するには、自己も家族も世間も裏切り、なければならぬと本能的に思っていた。金蔵が血を見ることに異常にこだわったのも、そのためだ。

なぜ金蔵は「裏切る」のか？金蔵を破壊的な行動につき動かしているのは、出生の秘密である。金蔵の出自を隠し続ける母親の奇妙なふるまいと凄絶な自害、旅芝居の芸人達と母親との人目をしのぶ、けれど強い絆。これらは、当時異端視されていた芸能民と金蔵の出自のつながりを暗示している。

山村誠一 ミュージックショー 祝☆還暦

山村誠一の還暦祝いにラグタイム・ブルースの巨匠有山じゅんじとアコースティックギタリスト押尾コータローがやってくる!!

ラテン、ジャズ、ワールドミュージックとビートを刻み、そしてスティールパンと出会い紡いだ山村誠一60年の軌跡を音楽で振り返る珠玉のスペシャルライブ、高知での活動母体カリビアンハーツも駆けつけ賑やかにお届けします。

※本公演は2020年5月1日(金)に予定していた事業の振替公演です。

【日時】 11月26日(木) 18:30開場 19:00開演 (予定)

【会場】 高知市文化プラザかるぼーと 小ホール

【料金】 前売 一般3,500円 高校生以下1,500円
当日 一般4,000円 高校生以下2,000円
※全席自由(満席の場合は立ち見となる場合があります。)
※未就学児入場不可

お問い合わせ: 高知市文化振興事業団 088-883-5071



神保彰ワンマン オーケストラライブ



世界のトップドラマー500人を紹介するサイトDRUMMERWORLDに掲載された日本人2人のうちの1人である、神保彰。メロディーやアンサンブルを1人でたたき出す“ワンマンオーケストラ”という演奏スタイルは唯一無二で、2007年には、ニューズウィーク誌の特集「世界が尊敬する日本人100人」に選出された。その驚異的なドラムテクニックは必見!!

【日時】

9月12日(土)

17:30開場 18:00開演(予定)

【会場】

高知市文化プラザかるぼーと小ホール

【料金】 全席自由

前売 一般 2,000円

高校生以下 1,000円

当日 一般 2,400円

高校生以下 1,200円

※未就学児入場不可

【お問い合わせ】 高知市文化振興事業団

088-883-5071

風伯

我が身を救う愛の ホルモン

Gの高周波に合致し活性化するというのだ。中国では昨年末に都市部で5Gネットワークが開始しているし、北イタリアや米国も5Gネットワークが普及している。札幌でいち早くコロナが蔓延したのも、さっぽろ雪まつりへの中国人観光客を当て込んで、一部に5Gを設置したからだといわれている。専門家の間でもさまざまな意見が出

新型コロナウイルス感染症(以下コロナ)の話題で持ち切りで、他の話など書く心の余裕がもてない。日本では罹患率や死亡率が低いのは、BCGの接種をしていないイタリアなどに比べ、接種率がほぼ100%と高いからでは、という説もある。

一方いま話題の5Gの普及が罹患率を高めているとも。コロナのヒゲが5

されているが、なかでも私が興味をそそられたのは、愛による感染防止効果があるというもの。愛の脳内ホルモンの一つにオキシトシンというものがある。触れ合ったりスキンシップやマッサージ、見つめ合い、抱擁することでおキシトシンが分泌されるのだという。そんな相手がいない場合でも、友だちと食事をしたりカラオケに行ったり、おしゃべりするのにも効果があるというのだが、それが感染の引き金にもなるというシレンマもある。

母親が赤ちゃんを産む際の陣痛によって最も多くオキシトシンが分泌されるという。ヨーロッパで最もコロナの罹患率が低いのは、出産経験のある女性だという調査結果が出てきているという。逆に罹患率の高いのが六、七十代の男性だという。

我が身を救う愛のホルモンを分泌させる機会が最も少ない年代ということだろうか。

(霖)

今号の表紙

はな

土居 一美

5月には新緑の季節です。4月の肌寒い季節を抜け、空は靑空が広がり緑は瑞々しく山を彩ります。

花々は桜を追いかけるように次々と花を咲かし始め、とても気持ちがよい時期だと思います。

私自身、自然に元気をもらうことが多いので、この文化高知の表紙を見た人にも明るい気持ちになってもらいたいと思い、今回このような表紙デザインにしました。

(とい かすみ/

国際デザイン・ビューティカレッジ2年生)



新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の感染拡大リスクが高まっていることから、ご来場の皆様の安全・健康を考慮し、本事業を中止とさせていただきます。

2020.5.23(日)・24(月) 午前9時～午後6時 [月曜休館]
高知市文化プラザかるぽーと [7階市民ギャラリー] 午後5時終了
北見市美術交流作品

入場料 ▶ 療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・身体障害者手帳の各所持者と
その介護者1名、及びその家族(高校生以下は無料)
前売券販売所 ▶ かるぽーとミュージアムショップ 088-883-5052
高新プレイガイド 088-825-4335 ほか

日時 ▶ 5月17日(日)・18日(月) 午前9時～午後5時
会場 ▶ 高知市文化プラザかるぽーと [7階市民ギャラリー]
出品料 ▶ 1部門につき一般1,500円/学生1,000円



お問い合わせ 公益財団法人高知市文化振興事業団 088-883-5071

主催：高知市代表委員会/公益財団法人高知市文化振興事業団/高知市教育委員会 共催：高知新聞社/ NHK 高知放送局/ RKC 高知放送/ KUTV テレビ高知/ KSS さんさんテレビ

デザイン ▶ 池田 美穂

